

ワクチン接種スケジュール (平成28年 10月1日以降)

●日本の定期/任意予防接種スケジュール (2016年10月1日現在)



★:接種の例 ●:標準的な接種期間 ●:積極的勧奨の対象
 ■:接種が定められている年齢 □:接種年齢 ▲:母子感染予防

出生時	生後6週	2か月	3か月	6か月	9か月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	50歳	60歳	65歳	70歳	75歳	80歳	85歳	90歳	95歳		
定期 予防接種法 (A 感染症)																																				
定期 予防接種 (B 伝染病)																																				
任意 任意接種																																				
● Hib (※1)	(インフルエンザ菌B型)	★	★	★		★																														
● 肺炎球菌 (※2)	(13価結合型)	★	★	★		★																														
● B型肝炎 (※3)	水平感染予防	★	★	★																																
● DPT-IPV 1期 (※4)	IPV 1期	★	★	★																																
● BCG		★																																		
● 麻しん・風しん混合 (MR)	麻しん (はしか) (※5) 風しん					第1期																														
● 水痘 (※6)						第1期																														
● 日本脳炎						第1期																														
● DT II期																																				
● HPV (※7)	(ヒトパピローマウイルス)																																			
● インフルエンザ (※8)																																				
● 肺炎球菌 (※9)	(23価多価体)																																			
● B型肝炎 (※10)	母子感染予防	★	★	★																																
● ロタウイルス																																				
● おたふくかぜ	(流行性耳下腺炎)																																			
● A型肝炎																																				
● 破傷風トキソイド																																				
● 髄膜炎菌 (※11)	(4価結合型)																																			
● 黄熱 (※12)																																				
● 狂犬病	暴露前免疫 暴露後免疫																																			
● 成人用ジフテリアトキソイド																																				
● 帯状疱疹																																				

予防接種法に基づき定期の予防接種は、本図に示したように、政令で接種対象年齢が定められています。この年齢以外で接種する場合は、任意接種として立て方についてはお子様の体調・生活環境・既往疾患の有無等を考慮して、かかりつけ医あるいは自治体の担当者とよく相談ください。

- (※1) 2008年12月19日から国内での接種開始。生後2か月以上5歳未満の間に受けることが、標準として生後2か月以上7か月未満で接種を開始すること。接種方法は、通常、生後12か月に至るまでの間に27日以上の間隔で3回皮下接種(医師が必要と認めた場合は20日間隔で接種可能)。接種開始が生後7か月以上12か月未満の場合は、通常、生後12か月に至るまでの間に27日以上の間隔で2回皮下接種(医師が必要と認めた場合は20日間隔で接種可能)の接種から4か月以上おいて、1回皮下接種(追加接種)が行われ、以上5歳未満の場合、通常、1回皮下接種。
- (※2) 2013年11月1日から4価結合型に替わって2価接種に導入。生後2か月以上7か月未満の間隔で、27日以上の間隔で3回接種。追加免疫は通常、生後12-15か月(1回接種の場合)4回接種。接種しめろは、次のようなスケジュールで接種。接種開始が生後7か月以上12か月未満の場合、27日以上の間隔で2回接種したのち、60日間以上おいてかつ1歳以降に1回追加接種。1歳-60日間の間隔で2回接種。2歳以上6歳未満: 1回接種。6歳5歳以上は任意接種。
- (※3) 2016年10月1日から定期接種導入。2016年4月1日以降に生まれた者が対象。母子感染予防はHbSプログラムと併用して健康保険で受ける任意接種(※10)の接種期間。
- (※4) D:ツブツブ。P:百日咳。T:破傷風。IPV:不活化ポリオを表す。IPVは2012年9月1日から。DPT-IPV混合ワクチンは2012年11月1日から定期接種に導入。四価は4回接種だが、OPV(生ポリオワクチン)を1回接種している場合は、IPVを本と3回接種。OPVは2012年9月1日以降定期接種としては使用できなくなった。2015年12月9日から、野生株ポリオウイルスを不活化したIPV(IPVワクチン)を混合したDPT-IPVワクチンの接種開始。従来のDPT-IPVワクチンは、生ポリオワクチン株であるセービーン株を不活化したIPVを混合したDPT-IPVワクチン(2015年12月9日製造)。DPTワクチンは2016年7月15日に有効期限が切れたことから、現在、国内で使用可能なDPTワクチンは製造していない。
- (※5) 原則としてMRワクチンを接種。なお、同じ期に麻しんワクチンまたは風しんワクチンのいずれか一方を受けた者、あるいは特に麻疹ワクチンの接種を希望する者は麻疹ワクチンの選択可能。
- (※6) 2014年10月1日から定期接種導入。
- (※7) 互換性に関するデータがないため、同一ワクチンを3回接種して6か月以降に接種。接種間隔はワクチンによって異なる。
- (※8) 6か月-13歳未満: 毎年2回(2-4回間隔)、13歳以上毎年1又は2回(1-4回間隔)。定期接種は毎年1回。3歳未満は1回0.25mL、3歳以上は1回0.5mLを接種する。
- (※9) 2014年10月1日から定期接種導入。黄熱病発生国における感染リスクを低減する目的で健康保険適用有り。接種年齢は2歳以上。
- (※10) 健康保険適用:【HbSワクチン】通常、0.25mLを1回、生後12時間以内を目安に皮下接種(接種者の状況に応じて生後12時間以降とすることも可能。その場合であっても生後できる限り早期に行う)。更に0.25mLずつを初回接種の1か月後及び6か月後の2回、皮下接種。ただし、腸動脈硬化が検出されていない場合には追加接種。【P:8HGS(原則としてIPVワクチンとの併用)】初回注射は0.5-1.0mLを暴露前注射。時期は生後5日以内(なお、生後2週間以内が望ましい)。また、追加注射は10.16-0.24mL/kgを投与。2013年10月18日から接種開始。
- (※11) 2015年5月18日から国内での接種開始。血清型A,C,Wによる髄膜炎菌感染を予防する。発育性夜尿・モグロビン尿症における菌血症抑制あるいは非典型性溶血性敗血症患者における自伝性微小菌血症の抑制等がエクスプレスマブ(製品名:ソリリス)と同様に投与する場合は健康保険適用有り。
- (※12) 一般医療機関での接種は行われておらず、接種所での接種。

【国立感染症研究所 感染症疫学センターIPV移行一部改良】